

⑥ オンライン WS システム構成

松村哲志（JCAABE 理事/日本工学院専門学校）

本取り組みの一つの大きな挑戦にオンライン会議システムを活用した活動が挙げられる。日本においてこれまで実践されてきた住民・市民との協働によるまちづくりの知見について、カイロの専門家とその知見を共有し、カイロと日本の専門家が協働して住民ワークショップを開催する。具体的には1_カイロと日本の専門家の協働による住民ワークショップ、2_エジプトでまちづくりに関わる専門家に向けての住民参加のデザイン・協働のまちづくりに関するレクチャー、3_住民ワークショップをもとにしたカイロの建築家による提案とまち歩きワークショップである。これらの取り組みは目的、シチュエーションなども異なるためそれぞれのシステム構成について記録をおこなった。オンライン会議システムのまちづくりへの活用は参加協働のまちづくりについて知見を共有し、距離を超えて協働を促すさまざまな可能性を秘めた取り組みといえる。あくまで現時点でのシステムであるがこの取り組みを足がかりとして今後、距離を超えた協働のまちづくりへの一歩としていただければと思っている。

○共通事項：重視すべき点とポイント

協働のまちづくりを行う上での基本的に考え方はwebを利用した場合でも同じである。特にwebを利用した距離を超えた連携でのシステムづくりでは以下のことを再度確認して進めていく必要がある。

- ・参加協働のまちづくりの重要なポイントに対話が挙げられる。Web 会議システムを用いた取り組みにおいても対話を活発に出来るシステムとすることを心がける必要がある。
- ・特に海外と繋がって実施する際は同時通訳や資料提供などその目的とシチュエーションに合わせた対応が必要である。
- ・主役は住民・市民であり、現地の専門家であることを心がけ、対話を含めた協働が行われていくように実施する必要がある。

○zoom 言語通訳機能：距離を超えて対話をすすめるために

この取り組みにおいては言語が違う人々の対話を促進するために zoom の言語通訳機能を用いて同時通訳を入れてワークショップを行った。詳しい使い方の説明は下記 zoom のサポートページを参照いただきたいがここでは基本的な考え方、ちょっとしたポイントについてのみ記載する。

(参考) <https://zoom-support.nissho-ele.co.jp/hc/ja/articles/360039825411>

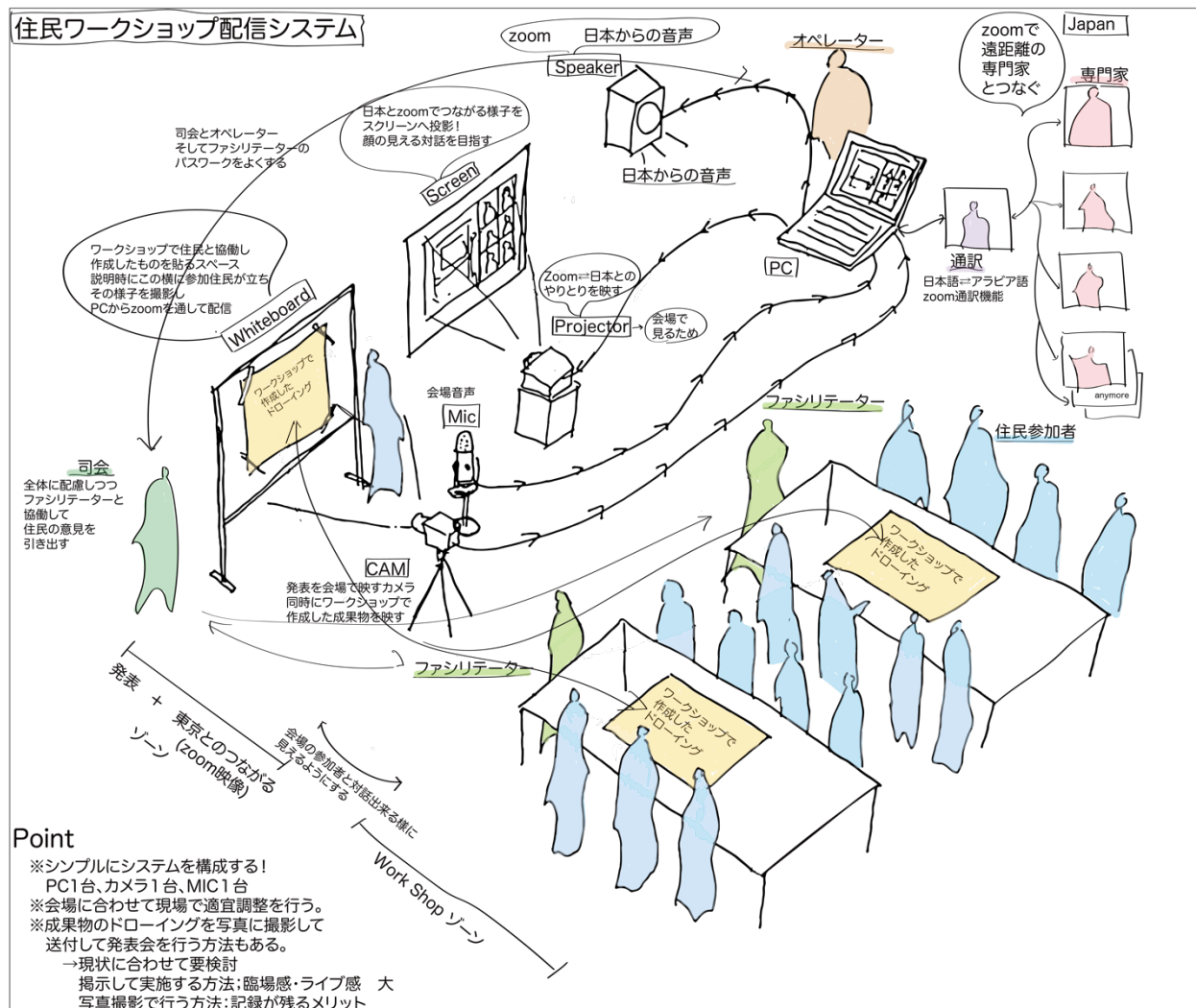
[考え方]

Zoom における言語通訳機能は言語ごとに音声チャンネルを分けて配信することができる機能である。例えば本事例のようにカイロから参加する参加者はアラビア語、日本から参加する参加者は日本語と言った場合、事前に同時通訳を zoom 上で指定しておくと同通訳者は音声を送信する際にアラビア語、日本語のチャンネル切り替えを行える。いわばリアルでの会議における同時通訳ブースのような機能を zoom 上で指定できる機能である。聴く側は使いたい言語のチャンネルを選んでおけばその言語での同時通訳を利用することができる。

[Point]

- ・通訳者の指定は事前に行う必要がある。登録したメールアドレスから専用のアクセス ID が配信され、そこから入室する必要がある。また、指定から通訳者のアクセスが許可されるまでタイムラグがあるので早めに指定する必要がある。
- ・利用者は言語選択から他の言語チャンネルをミュートする機能があり、ミュートをオンにすると必要な言語のみ利用することができる。

○住民ワークショップ配信システムについて（現地住民+専門家 ⇄ 遠隔地専門家 協働/通訳有）



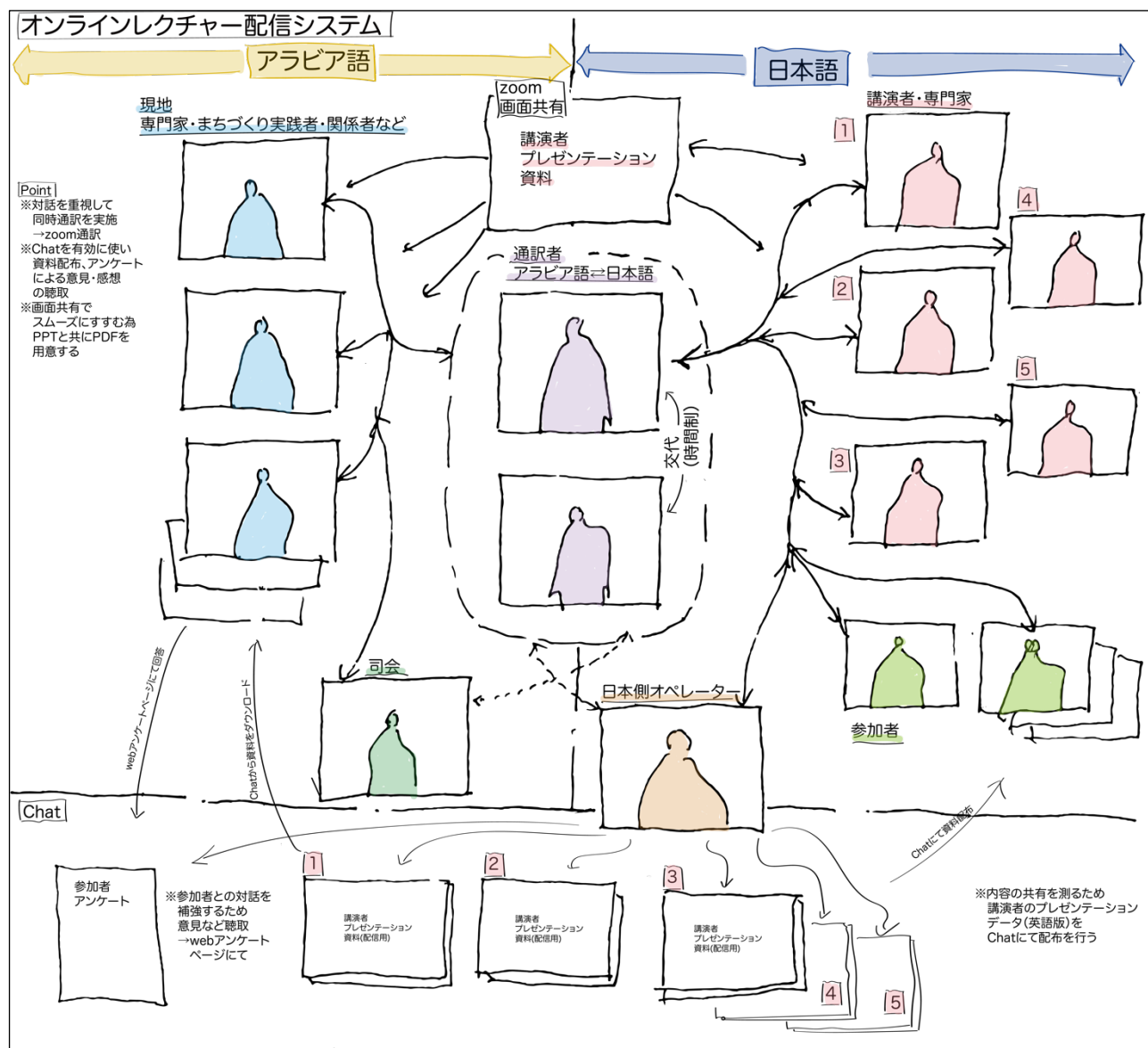
【概要】

まちづくりを行う対象地域でリアルに専門家と住民がワークショップを実施。web 会議システムを用いて遠隔地にいる専門家とつながりサポートを行うことで距離を超えた協働を実現する。距離を超えた地域間でのワークショップを実現するとともに、一歩進んで、ワークショップに参加しにくい住民市民がweb でつながり参加協働を行うハイブリット型ワークショップへの展開の基本となるシステム構成。

【運用メモ】

- ・web 会議システム：zoom_通訳機能
- ・必要機材：PC、web カメラ、マイク、プロジェクターに加えて
ワークショップのための道具（マーカー、模造紙、ポスタイトなど）
- ※今回は住民の意見を短時間に引き出すことを考え模造紙に代わり地図、対照建物を中央に配置し周りに書き込める余白を多く配置した専用の用紙を用意した
- ・通訳_今回はアラビア語⇄日本語 2名（1.5 時間程度で交代のため）
- ・役割分担 司会、オペレーター、通訳、ファシリテーター
※司会とオペレーターは専任として行うことが望ましい。
- ・時差に配慮して進行表、タイムスケジュールを構成することが望ましい

○参加協働のまちづくりに関するオンラインレクチャー



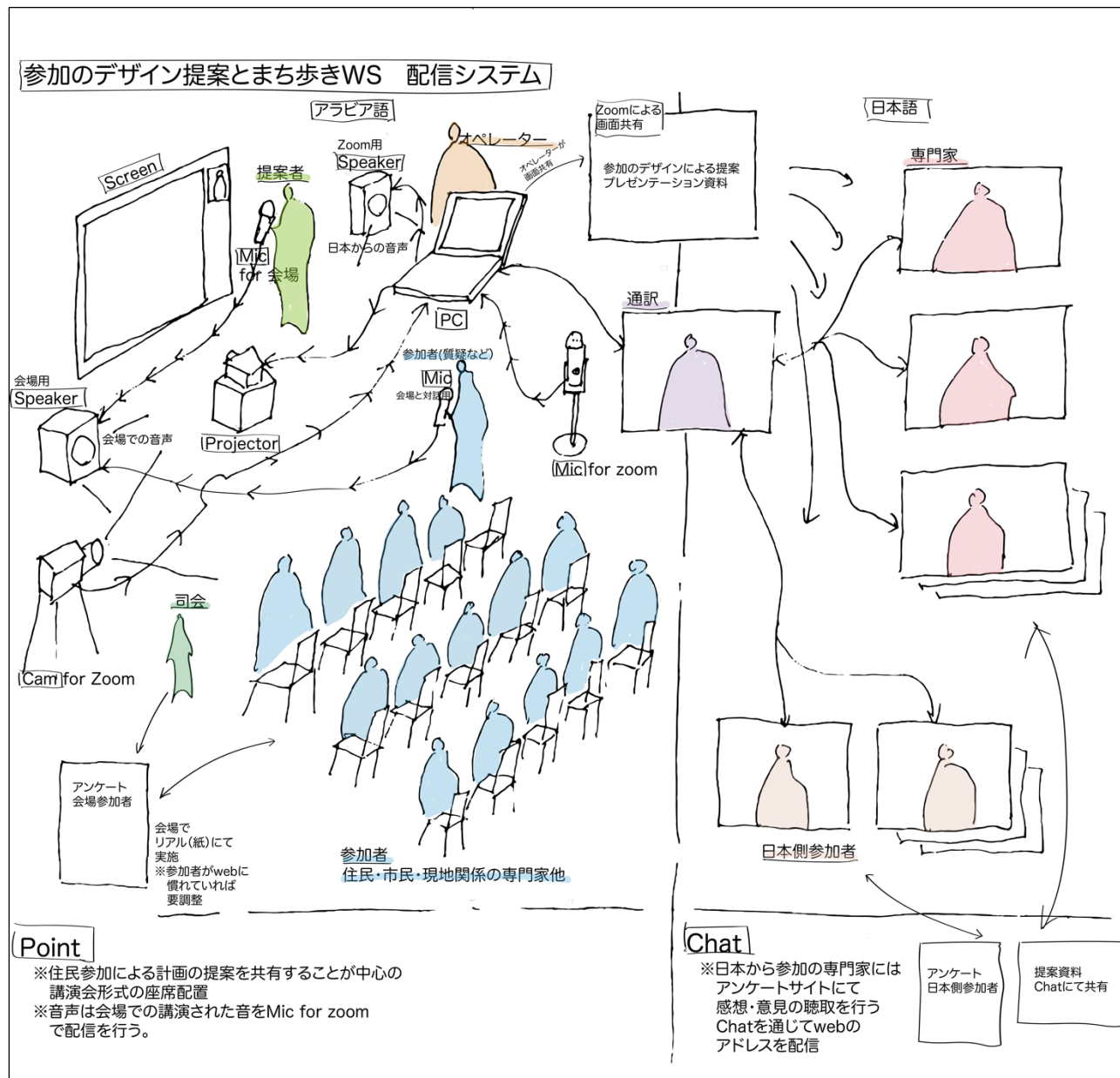
【概 要】

住民・市民の参加協働によるまちづくりについて情報を共有することを目的として参加協働のまちづくりに関するオンラインレクチャーを実施。参加対象は現地でまちづくりに関わる専門家・実践者・政府関係者である。距離を超えて各地の先行事例や新たな考えについてオンラインを通じて共有することで参加協働のまちづくりに関して知見を集約し、今後、推進していく一歩とすることを目的としている。対話を重要視することから同時通訳機能とともにチャットなど活用して資料提供など手助けを行なっている。

【運用メモ】

- ・web 会議システム：zoom_翻訳機能
- ・必要機材：PC、web カメラ_各参加者が準備_※全ての人がweb で接続していることから
- ・通訳_今回はアラビア語⇄日本語 2名 (1.5 時間程度で交代のため)
- ・役割分担 司会、オペレーター (資料の配布など Chat を管理)、通訳
※司会とオペレーターは専任として行うことが望ましい。
- ・時差に配慮して進行表、タイムスケジュールを構成することが望ましい

○住民ワークショップをもとにしたカイロの建築家による提案とまち歩きワークショップ



[概要]

住民ワークショップの結果を受けて現地の専門家が提案を作成。提案について発表を行い、対話を通じて質疑、意見交換を行うことを目的としている。提案を十分に理解し、より良いものに協働していくために対話を十分に行えるようにする必要がある。そのことからWSとオンラインレクチャーの中間のようなシステムが望まれる。参加対象者は住民・市民、現地専門家、日本側専門家、提案者と幅広くなることも意識して取り組みたい。終了後、現地にてまち歩きWSを実施。

[運用メモ]

- ・web 会議システム：zoom_翻訳機能
- ・必要機材：PC、web カメラ、マイク、プロジェクターに加えて
- ・通訳_今回はアラビア語⇔日本語 2名 (1.5 時間程度で交代のため)
- ・役割分担 司会、オペレーター、通訳、提案者 ※司会とオペレーターは専任が望ましい。
- ・時差に配慮して進行表、タイムスケジュールを構成することが望ましい。
- ・まち歩きワークショップはweb での配信はせずに現地にて独立して実施。